

FORUM REVIEW AF151

テーマ：「気候変動対策を都市計画・まちづくりにどう組み込むか」

講師：村山頭人氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授）



日程：2026年6月19日

都市の気候変動対策では、市街地の脱炭素化と増大する災害・健康リスクへの対策の視点から、マクロ視点での都市全体の構造再編とミクロ視点での地区の持続的再生を行うことが必要です。

特に「都市」の脱炭素化に向けては、一般の既成市街地での取組みについて方法論を発展させるべきです。人口減少や脱炭素化を理由にむやみに市街地をコンパクト化すると、人がいなくなったエリアの土地管理に困難が生じ、郊外の衰退を招きかねません。都市でも田園でもない、何とも形容しがたいエリアが地域に偏する実態を受け入れ、都市全体の計画においては、公共施設の配置と都市全域に広がるインフラシステムの構造・関係性を読み解き、多面的に整合の取れる都市構造を描くべきです。

地区の持続的再生では、グリーンインフラの導入や、自動車に頼らずに生活できる街路空間の構築を通じ、脱炭素化を進めるとともに街を活性化させる仕掛けが必要です。米国ポートランドの既成市街地再生・環境性能向上の経験を、他の地域に伝えるために開発されたエコディストリクト(Eco Districts)のように、地区の環境性能の改善のみならず、地区関係者のエンパワーメントや生活の質向上など、多方面へのアプローチができる枠組みが参考となります。このように小さな単位で実験的に取組みを進めるタクティカル・アーバンイズム(Tactical Urbanism)のような柔軟な手法を取り入れることが有効で、段階的で実践的なアプローチを通じて、気候変動時代に適応した持続可能なまちづくりを実現していくことが重要です。

2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了。東京大学特任研究員、名古屋大学准教授、東京大学准教授を経て、2024年より現職。専門は都市計画、公共政策としての都市デザイン、計画策定技法。主な共著に「世界のSSD100:都市持続再生のツボ」(彰国社)、「都心周縁コミュニティの再生術:既成市街地への臨床学的アプローチ」(学芸出版社)、「ミライ・ハビタット:2050年の生活圏を構想する」(学芸出版社)など。

